

会 議 名	第 1 回 MINATO×アート事業運営支援業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和 6 年 12 月 26 日（木曜日）正午から午後 1 時 00 分まで
開催場所	港区役所 3 階 産業・地域振興支援部会議室
委 員	出席 5 名 ・熊倉 純子（委員長） ・文化芸術事業連携担当部長 横尾 恵理子（副委員長） ・坂倉 杏介（委員） ・吉本 光宏（委員） ・区役所改革担当課長 野々山 哲（委員）
事 務 局	地域振興課文化芸術振興係
会議次第	1 開会 2 委員長、副委員長の選出について 3 選考委員会選考スケジュール（案）について 4 事業候補者募集要項（案）について 5 採点基準表（案）について 6 閉会
配付資料	[席上配付] 次第 資料 1 選考委員会設置要綱 資料 2 選考委員名簿 資料 3 選考委員会選考スケジュール（案） 資料 4 募集要項（案） 別紙 1 仕様書（案） 別紙 2 選考基準（案） 様式 1 質問書 様式 2 参加表明書 様式 3－1～3 共同事業体構成書等 様式 4 事業者概要及び業務実績 様式 5 業務従事予定者の経歴及び専任性 様式 6 業務実施体制 様式 7 企画提案書① 様式 8 企画提案書② 様式 9 プロポーザル参加辞退届 資料 5－1 採点基準表（一次審査）（案） 資料 5－2 採点基準表（二次審査）（案）
会議の内容	

	【1 開会】 (各委員より自己紹介)
C委員	【2 委員長、副委員長の選出について】 委員長の選出について 委員長は熊倉委員にお願いしたいと思うが、いかがか。 <異議なし>
委員長	副委員長の選出について 副委員長は横尾委員にお願いしたい。 <了承>
事務局	【3 選考委員会選考スケジュール（案）について】 資料3について説明
事務局	【4 事業候補者募集要項（案）について】 【5 採点基準表（案）について】 資料4～5について説明、一括審議
C委員	募集要項の中に、基本的に区内の事業者を対象とし、あるいは区外の場合は区内事業者との連携を前提とするような表記があるが、地域との密着性を判断するには、採点基準表のどこで判断すれば良いか。
事務局	まず、提案する事業者は区外でも良い。区内事業者の場合は加点となる。区内事業者との連携については、一次審査の段階では様式5－1採点基準表の項番2（3）エにおいて判断してほしい。
C委員	区内の事業者かどうかは誰が判断するのか。
事務局	事務局が判断する。
C委員	提案事業者は、主にアートに強い事業者が応募してくると考えているか。もしくは、地域課題やまちづくりに強い事業者が応募してくるのか。想定している事業者を念頭に置かないと、募集要項の読まれ方が定まらないのではないか。事務局がどのように考えているのか、前提を共有しておきたい。
事務局	本事業を新事業として立ち上げるに先立ち、様々な団体や学識の方にヒアリングを行っている。こういった部分が肝になるか聞いたところ、まずは区政課題を把握するためにヒアリングを重ねることから、事務局運營業務を担うことになるだろうということもあり、今回事務局として想定している事業者は、コンサルティングもできながらアート事業・文化事業に携わってもらえるようなところを想定している。まずはそういった視点で事業者を選定し、その事業者が様々な団体等に依頼をかけながら本事業を進めていくスキーマ

D委員 事務局 委員長 事務局	ムになると思う。本事業の初年度ということもあり、次年度以降のバランス等を研究していきたいと考えている。 仕様書の説明がされていないため、改めて内容を説明してほしい。 別紙1 仕様書（案）について説明 公募の後、業務内容について相談会等を行うのか。 全体の説明会等は設ける予定は無いが、質問の応募期間を設けているため、その期間内で質問があったものに対しては回答する。
D委員 事務局	本事業の仕様書を提案者側から見ると、項番2の目的において区政のあらゆる分野でアートを積極的に活用するとなっており、あらゆる分野となると山のようにあると思うが、提案者側で分野を選ぶことは可能か。全て提案するのは不可能だと思うので、分野の中から3つ選ぶなど絞る必要があるのではないか。 事務局のイメージとしては、区政全体の課題に対してアートを活用したいという理想像がある。しかし、全てとなるとかなり多岐に渡るため、例えば防災・教育・子育てなどピンポイントに絞ってやっていくことが現実的であるとする。そのため、D委員のご意見のとおり、区政の中で特に重要なものについて提案してもらうことは有効な手段であるとする。
D委員 事務局	仕様書の中で、受注者が各部、各支所に対し最低1回のヒアリングを行うとなっているが、おおむね20部署程度か。その場合、20部署全てにヒアリングを行うのか。 全ての部署に対し行う。
D委員 事務局	提案者は区の組織構造が分からないため、提案のボリューム感も分からないと思う。また、モデル事業も全分野やるのは、この予算では不可能ではないか。
C委員	どういう前提でどういう提案を出してほしいのか、すり合わせはしておいた方が良いと思う。コンサル系事業者の場合はおそらくプロセスの提案をしてくると考える。本事業をどういう手順で最適にやるのかなど、その効果検証のような提案をしてくるのではないか。一方でアート系事業者は具体的な事業の提案をしてくると考えられる。現時点で事務局の方でこういった提案を期待しているのかを共有した方が良いと考える。区としては案にはなると思うが、プランをしっかり立てた方が良いと考える。
D委員 事務局	本事業には3年計画があり、今回はその1年目であることを仕様書に書いておいた方が良いのではないか。本事業を3年間どのように展開していくかという全体像があった方が提案はしやすい。 現時点で本事業のイメージはどちらかというとコンサル系であり、まずは具体的にというよりは、ヒアリングをしながら積み上げていくということを念頭に置いていた。アート系事業者は実働が伴う具体的な提案をするという意見もあったが、今の時点では具体性は求めない理解でいた。

委員長	コンサル系事業者の場合は実働部隊を連れてこないと事業実施はできないので、今回の選考においては、実際に誰が実施するのかは分からないと考える。本当は予算や決算報告等がしっかりしている会社の方が安心ではあるが、モデル事業を実施するのであれば規模よりもちゃんとできるかどうか双方にとって重要なポイントとなる。
事務局	今の仕様書では、あらゆる分野という広めかつ曖昧な表記になっており、少し具体性を持たせないと、アート系の提案者には刺さらないと思うので、仕様書の書きぶりについては工夫する。
事務局	本事業の3年計画について別途資料で説明 本資料を分かりやすくし、別紙という形で添付し、事業の方向性については補足したいと考える。
D委員	追加の参考資料として、各部局の組織図が必要ではないか。
事務局	参考資料として添付する。
C委員	3年間のイメージが分かることは重要である。ニーズを把握し、効果的な提案を作るのが初年度の目標であることを理解してもらう必要がある。そのためにはリサーチが必要であり、効果的な提案も必要となるので、1者で提案しても良いし、実際の実施については別の会社と組むことも必要となる。そもそも区政を分かっているとダメなので、庁内の課題をきちんと勉強するという姿勢も必要となるので、いずれにせよ見取り図がしっかりあった方が良く考える。
副委員長	別紙1仕様書（案）2ページ目（3）のモデル事業について、全ての分野で実施しなければならないのか、とりあえず初年度なので何か1つを実施しなければならないのか、そのボリューム感を表した方が良く思う。1つ以上提案するなど、具体性を持たせた方が良く。
事務局	その他の項目も含めて、記載は工夫する。採点基準表についてはこのまま決定したいが、仕様書については事務局の方で意見を反映したものを各委員に再度確認してもらいたい。
委員長	その対応で良い。
事務局	仕様書の修正については年明け早々にメールにて送付する。現時点では1/10公表を目指したいので、一旦はそれに合わせた期日を設定する。
C委員	3月21日に事業者を選定した後、同月21日に二次審査を実施するが、事業者的にスケジュールは大丈夫か。プレゼンの準備期間等が短いのではないか。
D委員	少なくとも一次審査終了後の二次審査のスケジュールも書いておけば良いのではないか。
事務局	スケジュールについては募集するときに明らかにする。
	【6 閉会】